事後評価報告書に含める事項

1. 基本情報

草の根活動支援事業

（１） 実行団体名　　岬町人権協会
（２） 実行団体事業名　　「誰もが暮らしやすい地域の創造」
（３） 資金分配団体名　　(一財)大阪府地域支援人権金融公社
（４） 資金分配団体事業名　　ひと・まち・げんき助成
（５） 事業の種類　　草の根活動支援事業
（草の根活動支援事業／ソーシャルビジネス形成支援事業／イノベーション企画支援事業／災害支援事業のいずれかを記載）
（６） 実施期間　　２０２０年４月～２０２３年３月
（７） 事業対象地域　　大阪府泉南郡岬町淡輪１０区・１１区、岬町町営住宅(緑７丁会)、多奈川の借り受けた古民家周辺地域

2. 事業概要

この項目では、対象事業の概要を記載してください。この項目では、記載にあたっては以下の内容が明確になるように記載してください。
①事業によって解決を目指す社会課題と想定される直接対象グループ
②事業の概要（中長期アウトカム・短期アウトカム・活動）
③出口戦略

近年の岬町の最も大きな社会的課題は、人口減少と急速に進行している少子高齢化である。そのため、①コミュニティ機能が低下し賑わいが喪失　②経済が縮小し地元商店の廃業によって、高齢者を中心に日常の買い物に支障が出ている　③交通網が減少し、高齢者が外出する機会を失うことにより、ADL の低下、認知症・孤独死の恐れがある　④高齢者が家族や地域とのつながりを持てず、孤立する　⑤生産年齢人口の減少によりサービスの住民負担が増加　など、なんとかしなければならないさまざまな課題がある。そして、これらの社会的課題の解決には、安心・安全に暮らせるコミュニティづくりが必要である。

そこで、岬町人権協会では、集い「橋」および「かふぇグリーンヒル」の２か所で居場所づくりに取り組んだ。多奈川地区の古民家を借り受け、集い「橋」と命名し、改装を加えて、食事を作って提供したりたこ焼きを焼いて提供したりできるようにした。深日地区にある公営住宅のコミュニティールームに開設したかふぇグリーンヒルでも、ランチを楽しんでもらったり食事を提供したりした。コロナが広がっていた時にはアルコール消毒や換気の徹底はもとより、テイクアウトの対応を増やし、できるだけ閉じない工夫をしてきた。また、

淡輪地域では、買い物支援を実施するための、車をリースし、近隣の市のスーパーマーケットにも足を延ばしてニーズに応えた。また、ボランティアの体制を整えて、見守り活動を実施してきた。リース車に拡声器を取り付け、地域住民に犯罪予防や防災の呼びかけも行った。いずれの取り組みも、必然性が大きく、町内のほかの地域への拡大も望まれるものであり、人権協会が始めた取り組みが契機となって町内に広がりつつある状況である。

事後評価実施概要

この項目では事後評価の概要を記載してください。

（1） 実施概要

①どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか

②どんな調査で測定したのか※調査概要の記載の仕方は末ページ記載例参照

③調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

①②孤立を防ぐことが事業の最大の目的であるので、人と人のつながりが増加したかが重要ポイントである。集い「橋」やかふぇグリーンヒルへの参加が増えたかということも含めて外出の機会が増えたかどうか。また、人との関わりが増えたかどうか。参加者はどう感じているかといった“生の言葉”やエピソードを集めることとした。アンケートの実施と直接の聞き取りによって事業実施の効果を測る。

③人権協会が休眠事預金活用し社会貢献として取り組んできた事業は、しっかりと地域に根付き、今はなくてはならないものとなっている。一方、居場所事業への参加者や見守り活動の対象者、運営を担うボランティアの声は拾ったが、未参加の人も大勢あり、孤立が完全に解消できたわけではないので、収集できていない問題の存在についても意識している必要もあると考えている。

（2） 実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

※（2）実施体制に記載した氏名・団体・役職についても公表される情報となりますのでご留意ください。

	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	アンケート作成、実施集計、ヒアリング	関口良和	岬町人権協会　職員
	アンケート作成、実施集計、ヒアリング	安枝恵美子	岬町人権協会　職員
外部	社会的孤立の現状分析、支援の形	西田茂生	（一社）ヒューマンワークアソシエーション　守口生活困窮者自立支援事業　責任者（社会福祉士）
	地域活性、共助のまちづくり	梅本ルミ	（㈱）HRC コンサルティング　エコー共済担当者　（まちづくりコンサルタント）

外部	評価全般の評価指標の作成、分析、指導	直林　裕	一社）ヒューマンワークアソシエーション事業コンサルタント　（産業カウンセラー）

3.　事業の実績

この項目では、インプット、アウトプット、短期アウトカムの実績を記載してください。それぞれ初期値・目標値・実績値が比較できるように記載してください。
資機材については、事業で購入した高額の資機材について、主要なものを記載するか、資産台帳等の添付でも構いません。自己資金については、①契約当初の計画金額、実際に投入した自己資金の金額と種類、資金調達で工夫した点を記載してください。何等かの理由で事業への投入が難しかったものの、事業外で相乗効果をもたらすような取り組みを自己資金で実施した場合にはそちらも記載してください。

4 - 1 インプット（主要なものを記載）※最新事業計画書のインプット欄から転記してください。

（1）　人材（主に活動していたメンバーの人数や役割など）

（2）　資機材（主要なもの）

（3）　経費実績　助成金の合計（円）

① 契約当初の計画金額

② 実際に投入した金額

（4）　自己資金（円）

① 契約当初の自己資金の計画金額

② 実際に投入した自己資金の金額と種類

③ 資金調達で工夫した点

インプット	
（1）人材	内部:合計 6 人（担当者 2 人、事業実施担当者 4 人） 外部:合計 3 人（専門家 3 人）
（2）資機材	
（3）実績経費 （円）	①事業費￥7800000　内訳:直接事業費　管理的経費 ￥7276000　￥528000 評価関連経費￥420000 ②事業費￥10400000　内訳:直接事業費　管理的経費 ￥9872000　￥528000 評価関連経費￥420000
（4）自己資金 （円）	①￥600000 ②直接事業費￥670000 ③物品販売のほか寄付も含めて必要な額の自己資金を用意した。

4 - 2 活動とアウトプットの実績

（1） 主な活動

居場所づくりについては、①町営住宅緑 7 丁会のコミュニティールームでのサロン「かふぇグリーンヒル」②多奈川で借り受けた古民家を改修して作った集い「橋」でのランチと物品販売③淡輪地域交流センターでの交流サロン「福呼(ねこ)の居間」④集会所で行う喫茶「どんぐり」の運営を行ってきた。見守り事業では公営住宅と淡輪 10 区・11 区の高齢者、一人暮らしの高齢者の見守り活動に取り組んだ。また、車（「つれってって号」と名付けた）をリースして買い物支援事業を実施してきた。

（2） アウトプットの実績

【アウトプットに関する記載項目】※下記①～⑤は最新事業計画書から転記してください。

① アウトプット
② 指標
③ 初期値
④ 目標値
⑤ 目標達成時期（事業計画書に記載した時期）
⑥ 実績値

アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期	実績値
1.買い物支援を実施し、買い物に行けることを知ってもらう	①買い物支援がある事を知っているか（認知度） ②買い物支援を利用したことがあるか（利用度）	2019 年度の買い物支援数を初期値とする	2022 年度の買い物支援数を初期値の 2 割アップする	2023 年 2 月	対象地域が広がり、2 倍以上になっている。
2.地域の空き家で居場所づくりを地域住民やボランティアで行い、地域に居場所が作られていく様子を知ってもら	①ボランティアの参加人数 ②空き家を活用して居場所が作られていることを知っているか	2020 年度のボランティア参加者数を初期値とする 2020 年度の居場所来訪者数を初期値とする	2022 年度の参加者数を初期値の 1 割アップする 2022 年度の認知度を高め来訪者を 2 割アップする	2023 年 2 月	かふぇグリーンヒルではボランティアが倍増。参加者はその都度変化するが定着している

う					
3.見守り事業を実施して、安心な生活ができるようになる	①見守り事業回数、世帯数、人数 ②見守り事業の認知度向上、安心感を抱く人数	2019 年度の事業回数、世帯数、人数を初期値とする 2019 年度の見守り事業に肯定感覚を抱く人数を初期値とする	2022 年度の支援回数等を初期値の回数継続する 見守り事業に安心感・感謝を感じる人を 50%以上にする	2023 年 2 月	見守りに 97%の人が満足とアンケートで回答 不満は 0 これからも利用したいとの回答は 100%だった
4.居場所がある事を知って、利用してもらえるようになる	①居場所がある事を知っているか（認知度） ②居場所に参加したことがあるか（利用度）	【緑 7 丁会】【どないしたらええん会】【福呼の居間】【古民家改修喫茶】 2019 年度の居場所の参加者数を初期値とする	2022 年度の居場所の参加者数を初期値の 2 割アップする	2023 年 2 月	開催日によって参加者に変動はあるが、概ね 20%増で定着している。 【福呼の居間】は一定数で変化はしていない
5.新型コロナウイルスの感染に備えて体制づくりをし、事業継続できるようになる	①古民家の改修工事 ②3 密予防など、交流環境の整備	①なし ②なし	①古民家の改修工事完成 ②3 密予防など、交流環境の整備完了	2021 年 3 月	計画通り完了

4 - 3 外部との連携の実績

ここでは、以下のような点を記載してください。

- 行政、企業、NPO、アカデミアなどステークホルダーとの連携や対話について、どの程度実

施し、どのような工夫をしたのか。

- 市民参加について、合意形成のプロセスはどのように実施したのか。
- 包括的な連携、コレクティブインパクトによる事業組成を実施した場合、その仕組み作りに際してどのような工夫をしたのか。

・町営住宅(緑７丁会)のコミュニティールームを使用して「かふぇグリーンヒル」を開設するので公有財産使用手続きに配慮を受けた。2021 年度では、2 つのコミュニティールームのさらなる整備のために、人権協会の要望を受けて役場として予算措置も行った。
・かふぇグリーンヒルのイベントに町長、町議会議員、総務部長等も参加した。
・住民から借り受けた古民家を改修して作った居場所である集い「橋」の開設日には町長が来訪、挨拶もしてもらった。
・集い「橋」には所管の泉南警察署の警察官が時々来て、高齢者対象に詐欺防止などの呼びかけをしている。
・かふぇグリーンヒルや集い「橋」のイベントの広報には校区小学校が協力（全クラスで案内チラシの配布や参加の呼びかけ等）してくれていて校長や教員の参加も得られている。

4. アウトカムの分析

この項目では、短期アウトカムの達成度とその要因や課題、そこから見えてきた様々な波及効果について記載してください。事業の効率性は、包括的な支援プログラムとして資源の有効活用や費用対効果について検証をします。いずれも【特定した事実＋価値判断】の構成で記載してください。また、短期アウトカムの達成度合いから、中長期アウトカムに向けた展望が見えてきていれば、それについても記載してください。

5－1. アウトカムの達成度

（1）短期アウトカムの計画と実績

【短期アウトカムに関する記載項目】※下記①～⑤は最新事業計画書から転記してください。

① 短期アウトカム
② 指標
③ 初期値／初期状態
④ 目標値／目標状態
⑤ 目標達成時期
⑥ アウトカム発現状況（実績）
⑦ 事前評価時の短期アウトカム（変更した場合は元の短期アウトカムを記載してください）

短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期	アウトカム発現状況(実績)	事前評価時の短期アウトカム
1.買い物に行	①買い物	利用者に初	2022 年度	2023 年	買い物支	住民相互

ける喜びが、生きがいにつながり、住みやすい町になる	支援者数 ②買い物支援利用者の満足度	期アンケートを行い、現状の状態を初期値とする	満足度を初期値の2割アップする	2月	援者数は変わらないが満足度は100%	の助け合いによって地域を活性化する
2.居場所を作っていくことで、地域への愛着やコミュニティーが広がっていく	①参加人数 ②居場所への愛着度	利用者に初期アンケートを行い、現状の状態を初期値とする	愛着度を初期値の2割アップする	2023年2月	参加人数は増加・定着状態	地域の交流の場、活動の場を整備する
3.孤立が解消し、安心安全な生活ができ、地域への信頼が生まれる	①孤立解消できた世帯数、人数 ②公的支援につながった人数	公営住宅１２６世帯のうち見守り対象の26世帯を初期値として取り組む	見守り対象の20%以上が、コミュニティールーム等で実施する居場所づくり事業に参加する	2023年2月	20％以上の参加があるものの外出がほとんどない人もあり、見守りの継続が必要	安心で安全な生活の地域にするための仕組みづくりを進める
4.居場所に行くことで他の人とのつながりが生まれ、自発的に外出できるような生活環境になる	①居場所利用者数 ②居場所利用者の満足度	利用者に初期アンケートを行い、現状の状態を初期値とする	満足度を初期値の2割アップする	2023年2月	利用者数は開催日による増減があるが定着している。満足度が高い	「人」と「人」がつながる居場所を創出する

（２）アウトカム達成度についての評価

※複数のアウトカムの達成度を踏まえ、取りまとめ総合的に評価した内容を記載してください。

「かふぇグリーンヒル」及び集い「橋」の居場所づくりを終え、参加者もほぼ定着している。参加者の満足度は極めて高く、「かふぇグリーンヒル」では参加者の中からボランティアに回ってくれる人もでてきた。見守り活動についても、対象の住民から感謝されていることがボランティア側にも励みになっている。買い物支援もコロナを気にしながらも定着し

ている。孤立を防ぐことが活動の大きな目的であり、一定成果を上げてきている。

5－2. 波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

買い物支援は淡輪１０区･１１区を対象地区に開始したが､2022 年 4 月からは集い｢橋｣の方でもボランティア組織を新たに立ち上げ、希望者を募って、取り組みが始まった。また、淡輪での見守り活動の取り組みの延長線で、新型コロナワクチン接種の予約を代行してとる取り組みを行った。電話が何時間もつながらないという不安と不満の中で、約 120 人の予約をとり大いに感謝された。また、居場所づくりは、町内の他の地域でも数か所で始まり、町の方でも補助金を用意するなど、本会の活動が契機となって広がってきている。

5－3. 事業の効率性 ※補足資料参照

新型コロナウイルスに対応して、換気のための大型扇風機の設置など様々な対策を講じてきた。そのため、集いの場でクラスターが発生したりしないで取り組んでこれたが、今後新型コロナが 5 類の疾病に移行するということで、これまでと全く同じ対応でよいのか考えなければならない時期に来ている。仕切りのアクリル板や二酸化酸素測定器など、無駄なことであるとは当面考えないが、ずっとこの先もそうかどうかは、岬町以外の地域の取り組みも参照していきたい。投じた資金が現在無駄になっているということはないと認識している。

5. 成功要因・課題

事業で達成した成果のうち、特に社会課題解決に貢献したアウトカムと、達成が困難であったアウトカムについてその要因や課題を記載してください。

2018 年に WAM の活動助成金を得て『岬町まちづくり研究会』を立ち上げ、暮らしのアンケートを実施した。そこでは、少子高齢化と人口減少がもたらす様々な地域課題が明らかになり、一定の取り組むべき社会的課題も整理されていた。一方、社会活動を具体に進めていくボランティア集団が必要だが、集会所で月１回「どんぐり喫茶」を２０年以上前から取り組んできたボランティア集団があったこと、地域の中で個人の車で買い物支援をして人助けをしているという動きが既にあったことも幸いであった。また、公営住宅の中でも、整ったコミュニティールームがありながら全く活用されていないことを気にかけている人もいたことなど、今回の休眠預金活用事業を実施するための素地が地域にあったことが一つの大きな成功要因であったといえる。つまり課題意識の共有と活動の意思がベースにあったということである。

課題の一つは、現在の活動を担っている人の層は高齢者が多く、若い層が薄いということである。なかなかボランティア集団に参画してもらえないのは、高齢者が多いということだけではなく、勤めに出ているという現実的側面もあり、難しい課題である。今一つの課題は、休眠預金活用事業の助成金がなくなった後の資金面である。資金面での岬町人権協会としての支えは限られているので、収支のバランスをどうとるか、新たな資金調達をどうするかが課題である。

6. その他深掘り検証項目（任意）

団体が重要・有益だと思うことを、より深掘りして検証を行った事項があれば、その内容を記載してください。

7. 結論

ここでは、上記で特定した事実および価値判断結果より、事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度について自己評価し、事業実施の妥当性の評価として取りまとめます。
総合的に見たときに、課題やニーズの適切性、課題やニーズに対する事業設計の整合性、実施状況の適切性、成果の達成状況のすべてを振り返り、自己評価します。重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として自由記載してください。また契約当初の総事業費から数百万円規模で増額・減額している場合や、アウトカム変更を行っている場合には、その変更の妥当性についても自己評価結果を記載してください。

居場所づくりと運営は公営住宅内に２か所、改装古民家に１か所、本事業で新たに取り組んだ。以前より集会所で「どんぐり喫茶」、地域交流センターで「福呼の居間」の居場所と合わせて広げることができたが、この活動が刺激となり、子ども食堂が新たに始まったり、居場所としての喫茶・サロンが生まれたりしてきた。岬町の方でもそれらの活動に補助金を用意したりして支援の動きを見せている。休眠預金活用事業がそれらのきっかけを作った。また、買い物支援は、集い「橋」のボランティア組織を拡張する形で多奈川でも１年近く前から新たに始まったが、休眠預金活用事業で始めた買い物支援事業を参考に取り組まれている。これにも岬町が補助金を出して支援している。取り組みの広がりが生まれたのは、地域の中に社会的ニーズがあるからであり、住民相互が助け合って暮らしやすい町にしていくことが引き続き求められている。いかにフォーマル、インフォーマルな社会資源を発掘し生かしていけるかが課題といえる。

８-１事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（１）事業実施プロセス				○	
（２）事業成果の達成度				○	

（１）、（２）それぞれ１箇所を選択する。

８-２事業実施の妥当性

少子高齢化が急速に進展している岬町で、１０１８年に『岬町まちづくり研究会』が立ち上げられ、暮らしのアンケート調査が実施されている。その分析も踏まえて、居場所づくりと買い物支援、見守り活動を形ある事業として推し進めてきた。住民のニーズに沿った妥当性のある取り組みであると認識している。

8. 提言

ここでは、評価結果に基づき事業を継続していく上で、役立つ提案・助言を記載してください。本事業をどのように持続・発展させるか、休眠預金に依存せずに自走化させる戦略とその実施状況等を記載してください。

これまでの取り組みを継続するためには、活動に参画しているボランティアの共通理解や目的意識の共有が、まずは大切である。それが、アイデアを出し合ったり、支えるボランティアメンバーを増やしたりすることにつながる。休眠預金から離れた場合は、サロンや集いの場の参加者に提供するランチ等の売り上げによって賄っていくことを基本とする。寄付等を募っていくことも、さらに努める必要がある。

9. 知見・教訓

ここでは事業の経験や学びから類似課題への取組みに参考とできる具体的な教訓を記載してください。

少子高齢化の問題は、岬町にとっては喫緊の課題ではあるが、全国的にも当てはまるものである。岬町では、現状、元気な高齢者が支援の必要な高齢者を支えたり、元気な高齢者がサロンや集いの場を担ったりしているが、これは社会参加によって支援をする側をも元気にするもので、双方にメリットのある形である。若い層を加えて、うまく受け継がれていく体制が大事だと言える。

10. 資料（別添）

ここでは、以下のような事業の成果を伝える補強となる資料を別添でご提出ください。

- 事前評価報告後に見直した事業計画やロジックモデル
- 事後評価報告時の事業計画やロジックモデル
- 事業の様子がわかる写真資料
  ※公開可能な写真を貼付してください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください）
- 広報活動の成果品、報道された記事
- アンケート調査結果や実際に使用した調査票
- とりまとめられた白書
- 論文、学会発表資料
- 特許　など

※過去に提出したものは再提出していただく必要はございません。

■参考

調査概要を記載する際は、下記記載例をご参照ください。

【定量的な評価の場合】

◎短期アウトカム～～の評価

１）調査方法

・アンケート調査（主な項目は～）

２）調査実施時期

・2022 年 XX～2022 年 XX

３）調査対象者

・事業の対象となった XX 人のうち，XX 人を無作為抽出にて選定し～。回収者数 X 人（回収率 X%）であった。

４）分析方法

・xx と xx についてクロス集計（カイ二乗検定，残差分析）を行った。

【定性的な評価の場合】

◎短期アウトカム～～の評価

１）調査方法

・訪問面接調査（半構造化面接）

２）調査実施時期

・2022 年 XX～2022 年 XX

３）調査対象者

・事業の対象となった XX 人のうち，最も特徴的な変化を示した X 人を対象にした。その選定方法として～。

４）分析方法

・調査から得られたエピソードをロジックモデルの枠組みで分析した。

岬町休眠預金等活用事業
誰もが暮らしやすい地域の創造

２０２１年３月

岬町人権協会

CONTENTS

Ⅰ．休眠預金等活用事業のはじまり　P1

Ⅱ．休眠預金等活用事業で取り組む課題　P 2

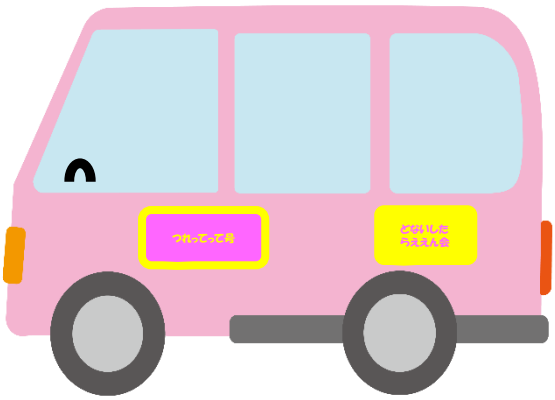
Ⅲ．古民家を活用した居場所づくり　P 3-5

Ⅳ．団地のコミュニティルームを活用　P 6-8

Ⅴ．買い物支援や見守り事業を活性化　P 9-11

Ⅵ．まとめ　P 12

Ⅶ．2020年度アンケート調査より　P 13-29



Ⅰ．休眠預金等活用事業のはじまり

『岬町まちづくり研究会』から見えてきた課題

近年の岬町の社会課題は、深刻な財政難のほか、このままでは、2040年には人口が10，872人、高齢化率44．1%になり、大阪府内でも特に人口の減少や高齢化が進むことが予測されます。その中でも多奈川・淡輪地域の65歳以上の高齢化率は、約60%と極めて高い数字で、『50年後を先取りした高齢化率』が大きな問題となっています。

町の特徴としては、低所得者が集住する「公営賃貸住宅」に住まれている割合が高く、他市から地域に流入することが少ないため、人口減少は大きな問題です。

2018年度に、WAMの活動助成金を受け、岬町、岬町人権協会、学識経験者、部落解放同盟大阪府連合会、㈱HRCコンサルティングとともに『岬町まちづくり研究会』を起ち上げ暮らしのアンケート調査を実施しました。その分析の結果、少子高齢化、人口減少が町内の活力を衰退させる大きな要因となっていることがわかりました。多奈川・淡輪地域の65歳以上の高齢化率は、約60%と極めて高く、そのうち、高齢者の一人暮らし世帯が６割と、福祉的課題を抱えた一人暮らし世帯に対して、岬町としてのフォーマル、インフォーマルな社会資源が追い付いていないという結果が出ました。

それらの影響により、大きく分けて５つの社会的課題が出てきました。

① コミュニティ機能が低下し地域の賑わいが喪失している。
② 経済が縮小し、地元商店の廃業によって、高齢者を中心とした買い物支援が必要である。
③ 交通網が減少し、高齢者が外出する機会を失うことにより、ADLの低下、認知症、孤独死の恐れがある。
④ 高齢者が、家族や地域とのつながりを持たず、社会的に孤立してしまう。
⑤ 生産年齢人口の減少でサービスの住民負担の増加が見込まれる。

これらの社会的課題を解決していくためにも、安心・安全に暮らせるコミュニティづくりの支援が必要とされました。

このような中「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」（休眠預金等活用法）に基づき、2009年１月１日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が2019年度から始まりました。岬町人権協会として応募したところ、民間公益活動を行う「実行団体」として選ばれました。

この民間公益活動は2020年度～2022年度までの ３ 年間の事業助成が可能となり、この事業を活用して、誰もが暮らしやすい地域づくりを開始しました。

Ⅱ．休眠預金等活用事業で取り組む課題

5 つの目標課題

休眠預金等活用事業で解決したい 5 つの課題を設定しました。

① 誰もが社会の一員として暮らせる社会づくりの必要性
誰もが孤立することなく、お互いの違いを認め合える「人」と「人」がつながり、支えあう地域づくりを行う。

② 安心して暮らせる環境（社会資源）の整備の必要性
安心で安全な生活ができるよう、地域住民の「身近な相談の場」「地域の活動の場」「交流の場」を整備する。

③ 住み慣れた地域で必要な支援・サービスを受けられる仕組みづくりの必要性
行政、介護・医療機関、地域団体などと連携すると共に、早期に発見・支援できるような見守り活動の強化。

④ 助け合いの輪を地域に広げる住民互助型の仕組みづくりの必要性
「困った時はお互いさまの心」で助け合い、買い物等の楽しく・笑顔が広がる移動支援にチャレンジ。

⑤ 次世代の地域を支える人材の発掘と育成の必要性
住民、自治会、ボランティア、NPO、民間企業などと連携し、地域人材やボランティアの発掘・育成。

上記の 5 つの課題は、ひとつひとつの積み重ね（スモールステップ）と地域の協力者を増やすことが重要となります。
1 年目（2020 年度）は、岬町人権協会がこれまで蓄積した住民ニーズを行政、地域団体、住民などの地域を支える側が協力して、居場所支援、個別支援、サービスの仕組みづくりを行い、支えが必要な方に情報が届くよう、アウトリーチを重点にして、3 つの事業に取り組みました。

Ⅲ. 古民家を活用した居場所づくり

1. 古民家探しから始まった活動

中地域は、近所にコンビニやスーパーなどがなく、高齢者を中心とした買い物支援が必要な地域のひとつです。そのため、地域の住民（主に女性）が集いの場として17年前から活動している「喫茶　どんぐり」。21名のボランティアが毎月 1 回喫茶コーナーや手作り総菜、お菓子、自家栽培の野菜の販売などをしており、とても盛況です。

休眠預金等活用事業では、空き家を活用した居場所づくりの『空き家 DIY』に取り組み、毎週OPENするパンや菓子類、日用品、雑貨などの販売をする小さなコンビニづくりを行い、高齢者のみならず子どもたちからも喜ばれる活動を地域で実現しようということになりました。

多奈川地区の港地域の周辺を中心に空き家を探し、いくつかの物件の家主さんに協力のお願いにまわりました。最終的には、一軒屋橋のたもとに佇む元料理旅館の空き家をお借りできることになりました。この空き家は、 沢山の部屋数や中庭もあり、今後の活動に向けて夢が更に膨らみました。

2. バリアフリーの居場所づくり

シルバー人材センター、多奈川地区のボランティアの方々の協力を得て、古民家のDIYに取り組みました。長らく使われていなかった古民家の 1 階を主に改装するところから始めました。真夏の炎天下の元、皆さんの協力で劇的な変化に!!

Before

喫茶と看板に書くと営業許可がいるため、現在は集い『橋』に看板変更

After

床はフローリングになり、テーブルも 6 セット設置

3. 集い「橋」OPEN にむけて

OPENに向け、まずは試食会を開催しました。ボランティアさんが想いを込めた、小鉢3品付きの豪華ランチ、野菜たっぷりモーニング、丼などを参加者で試食しました。

モーニングセット

天丼　小鉢３品付

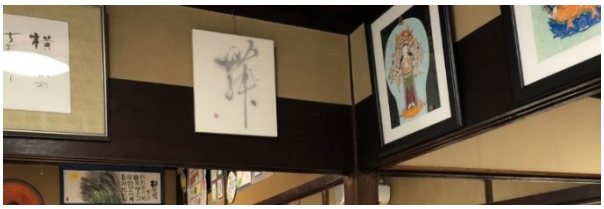
カレーセット

4. 集い「橋」OPEN

いよいよ2020年９月13日(月)にOPENすることになりました。

コロナ禍で密を避けるために宣伝を控えていましたが、古民家の改修作業や集い「橋」の看板がつくと、ご近所では噂になり「いつOPENするの?」などの声がたくさん寄せられ注目を浴びていました。当日は、来賓、周辺地域住民の方などたくさんの方が駆けつけてくれました。

９ 月のOPEN以降、近隣の方の口コミにより、1 日平均40名ほどの参加者が来てくれてとても盛況です。コロナウィルス感染予防として、各テーブルにアクリル板パーテーションの設置や、玄関入り口での手の消毒や検温なども実施してきました。緊急事態宣言下では、活動中止やテイクアウト方式にするなどの工夫もしました。



室内にはギャラリーの様に絵画も設置

ボランティアさんも大忙し!!

岬町長 田代様、
大阪府人権協会代表理事 田村様

近隣の方もたくさん集まってくれました

駐在所から、詐欺予防指導

OPEN 記念を
祝した手作り和菓子

5. 喫茶「どんぐり」の取り組みについて

毎月第３日曜日に港会館で開催している喫茶「どんぐり」は今年で17年目を迎えます。新型コロナウィルス感染予防のために、テイクアウト方式を取り入れる日が多くありましたが、総菜や野菜の販売を楽しみにしてくれている住民の方が多く、大半が開始して30分ほどで完売してしまいました。

おでん・野菜の販売など

6. 2021 年度の取り組みでめざすこと

コロナ禍で思うように集い「橋」を開けなかったので、近隣住民の方は早期全面開催を待ちわびています。またボランティアも、もどかしい思いでいっぱいです。ワクチン接種が進み、状況が落ち着いてくれば、2021年度はモーニングをランチに切り替え、週 2 回の開催を計画しています。さらに、子どもたちが参加しやすいように「たこ焼き＆焼きそば」を月 2 回にし、階下の部屋と中庭を地域の皆さんに気軽に活用してもらえるようにしたいと思います。

ここからボランティア活動の輪がさらに広がり、買い物支援や「まちの便利屋さん」のような活動を生み出していきたいです。

Ⅳ．団地のコミュニティールームを活用

1. 使われていなかったコミュニティールーム

多奈川線の深日港駅を降り、急な坂道を上っていくと、緑 7 丁会がある町営緑ヶ丘住宅の団地が 3 棟建っています。高台にあるため、天気がいい日には明石大橋や海が見渡せる静かな場所です。しかし急な勾配の坂道を上り下りしないと駅にも買い物にも行けません。コミュニティバスは通っていますが、本数も少なく移動支援や買い物支援が必要な地域です。近年、孤独死した高齢者が増えており、住民同士のつながりや地域資源の不足が原因の一つと考えられます。

町営緑ヶ丘住宅は、町営緑ヶ丘住宅 PFI 事業計画として2018年 8 月に建替えがされており、入居者同士のコミュニケーションが図れるように、敷地内には集会所や 1 棟、2 棟の 1 階の一室にコミュニティールームが設置されています。しかし、あまり活用されていませんでした。

そこで、休眠預金等活用事業のチャレンジ事業として、団地のコミュニティールームを活用した居場所事業を展開することにしました。建替えに伴い、子育て層が多い棟もあり、育児の悩みを抱えた保護者の方とのおしゃべりサロンや、子どもといっしょに遊べるスペースも合わせて、多世代が交流できる居場所づくりを進めることになりました。

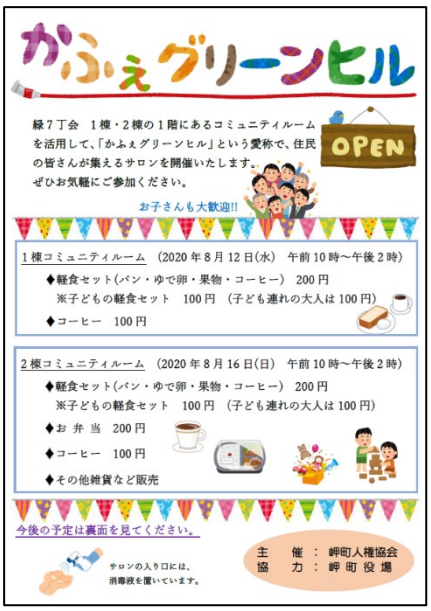
2. 居場所の立ち上げにむけて

1 棟には主に高齢者層が入居されているので、併設されているコミュニティールームは毎月第 2 水曜日の午前 10 時～午後 2 時まで。主にモーニング形式の軽食の提供。2 棟は子育て層が多く住んでいるため、毎月第 3 日曜日の午前 10 時～午後 2 時まで開催し、軽食に加え、総菜やお菓子の販売などをすることに決めました。

以前からこの緑 7 丁会では、老人憩いの家を活用して昼食とカラオケなどの居場所づくりをしていましたが、当時からボランティアとして参加している人は 3 名という現状でした。

初めてコミュニティールーム活用事業をするにあたって、まずは地域でのボランティアの呼びかけと並行して、喫茶「どんぐり」のボランティアメンバーにも力を借りて開催していくこととしました。

3 棟すべてに OPEN のチラシを全戸配布し、周知することから始めました。



3. 「かふぇグリーンヒル」OPEN

居場所の名前は「かふぇグリーンヒル」。7 月19日（日）からの開催となりました。部屋の飾りつけや軽食セットの準備に大忙し。ボランティアさんも 3 名から 5 名に増えました。また喫茶「どんぐり」のボランティアさんも駆けつけてくれました。

当日は数人だけの参加かなと思っていましたが、チラシを見てくれた人がたくさん来てくれました。子どもの参加もあり、バルーンアートを楽しんだりしていました。

4.四季折々のイベントや開催内容の工夫

「かふぇグリーンヒル」を開催していくなかで、参加者の中から、ボランティアとして参加してくれる人が増え、現在 6 名のボランティアで運営できるようになりました。

開催していくうちに課題として、食べたらすぐに帰るのではなく、もう少し居心地のよい居場所づくりをしたいという思いが膨らんできました。

そこで、食べるだけではなく「お持ち帰りできるもの」「イベント」「お出かけランチ」に取り組んでいくことにしました。

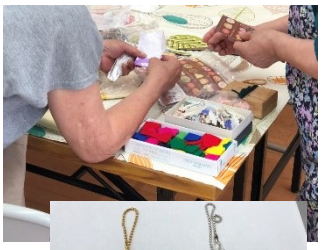
「お持ち帰り」としては、2 棟で開催する日のカフェでは、喫茶「どんぐり」の開催日と一緒のため、提携してそこで販売している、わらびもち、炊き込みご飯、サーターアンダギーの販売をすることから始まり、現在では、自分たちで、ちらし寿司を作って販売したり、ポン菓子などを購入して持ち帰れるように工夫しています。

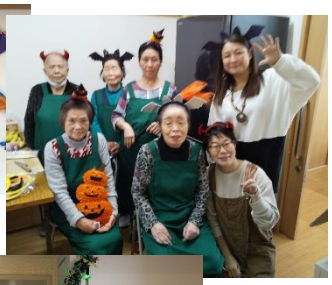
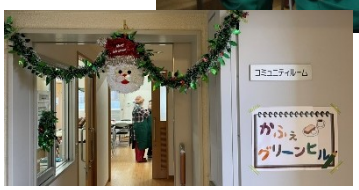
サーターアンダギーは『どんぐり』の方の手作り

ちらし寿司は絶品

「イベント」としては、自由に削ってオリジナルの絵柄を出せる「スクラッチアート」「プラバン」づくり「ハロウィンパーティ」「クリスマスパーティ」などを開催し、部屋の飾りつけやプレート皿を変えたり、BGMを流したりなどの雰囲気づくりもしました。

また、参加者の方が持ち寄ってくれた手芸などでも楽しみました。



「お出かけランチ」は、集い「橋」へ 2 回行きました。あまり外食をしない方も多く、このお出かけランチは人気です。車に分乗し、いざ出発。2 回目ともなると「橋」のボランティアさんから「ひさしぶりやねぇ～」と声がかかる場面も。帰り道では「また行きたいね」の声も上がっていました。

5. 2021 年度の取り組みでめざすこと

毎月 2 回開催することによって「かふぇグリーンヒル」は地域住民の皆さんに定着しはじめましたが、町営緑ヶ丘住宅には子育て層も多く入居しており、イベントの開催などを企画しながら、子どもも気軽に参加できるような居場所づくりをめざしていきたいと思います。

Ⅴ．買い物支援や見守り事業を活性化

1. 安全・安心な地域に「どないしたらええん会」の活動から見えてきたこと

淡輪地域の 10 区･11 区(約400世帯)において、65歳以上の独居高齢者が顕著に増加しています。安全･安心な暮らしを継続するためには、今後、高齢者も含めた支え合いの地域づくりが喫緊の課題となっています。将来に向けて「何かすることがないか」「どないしたらええんか」と地域住民で考え、岬町シルバー人材センターの理事長の呼びかけに、自治区長、地区役員、長生会役員、民生委員･児童委員、盆踊り･秋祭り保存会役員、その他の賛同者が集まり「どないしたらええん会」が立ち上がりました。

「どないしたらええん会」の活動の中で、地域住民から見えてきた課題は、「近くのスーパーで自分で選んで買い物したい」「病院の通院や薬を取りに行くのが不便」という移動支援や「集まれる居場所や住民さんと繋がれる場所が欲しい」という居場所づくりでした。そこで、休眠預金等活用事業では、「買い物などの移動支援事業」「居場所事業」に重点を置いてチャレンジすることにしました。

2. 移動支援事業本格実施にむけて

買い物移動支援事業モデルは、つれってってドライバー(ボランティア)が5名集まり、地域支え合い移動サービス講習会を開催するなど、以前から少しずつ始めていました。モデル事業では、つれってって会員は8名で完全予約制、毎週月曜日に買い物を楽しむことができ、自分の食べたいもの、買いたいものを自分の目で見て選ぶ喜びを感じ、多くの交通弱者に希望を与えられる取り組みとなっていました。

休眠預金等活用事業を活用して、本格的に買い物移動支援事業として取り組むために、運転ボランティア育成支援として福祉有償運送運転講習会を開催し、25名の参加がありました。

○実　施　日　：　週1回･･･月曜日
○行　き　先　　：エバグリーン･オークワ･トライアル
○ボランティア：「どないしたらええん会」の会員の
　　ドライバー4 名
○参加方法　：(1)「つれってって」会員として登録
　　･年会費1,200円
　　(2)500円の利用券を購入(6 枚綴り)
　　･往復で 2 枚利用
　　(3)予約をして買い物に行く

3.「つれってって号」始動開始

休眠預金等活用事業を活用し、移動支援車としてピンクの「つれってって号」をリースすることになり、2020 年 11 月 9 日(月)に出発式を執り行いました。出発式にふさわしく晴天で、32 名も集まってくれました。

ナンバープレートは10.区・11.区を取って、10.―11.に

本日の利用者は２名

ボランティアさんと話ながらの買い物

利用者の方からは「今までは、バスに乗らないと買い物に行けなかった。この車のおかげでこれからは買い物がスムーズに行けて嬉しい」との声が聞けました。

4. おしゃべりサロン「福呼(ねこ)の居間」の取り組み

以前から淡輪地域の高齢者が集まり、月に1回お菓子を食べながら交流する居場所を実施しており、休眠預金等活用事業を活用し、この居場所づくりの強化に取り組みました。毎月平均10名の参加があり、移動手段が困難な方は自宅への送迎も行いました。コロナ禍で中止せざるを得ない月も多くありましたが、引きこもりがちになっているからこそ、ここで会えたときには話と笑顔が絶えません。

5. 地域の独居高齢者等の安否確認や見守りのシステムづくり

高齢化率の高い淡輪地区内では、高齢者が体調不良により緊急搬送され、深刻な事態になってから異変に気付くのでは遅いと、住民の中でも危機感が高まり、地域見守りマップを「どないしたらええん会」を中心に作成しました。地域で気になっている人の情報を共有し、見守り活動に取り組めるよう、地域で支えあう活動を開始しています。

近年、詐欺事件や空き巣事件が多発しており、夜回りやピンクの「つれってって」号で地域巡回パトロールなどにも取り組みました。

6. 2021 年度の取り組みでめざすこと

2020年度はコロナ禍で「どないしたらええん会」の例会があまり開催できませんでしたが、地域を知る、困っていることを把握、解決する手法を、話し合える緩やかな場を創出し、子ども、若者、女性、高齢者、障がい者の出番と結びつけ、見守り活動や買い物支援・移動サービスなどを必要としている人たちの課題発見とともに、孤立防止のための居場所づくりにむけて活動をしていきます。

新しい活動として、地域内のちょっとした困りごとの解消のために「地域の便利屋さん」として有償のボランティア活動などを模索していきたいと思います。

Ⅵ　まとめ

2018年のWAMの活動助成金を活用して取り組んだ「暮らしのアンケート調査」結果で出た課題をきっかけに、休眠預金等活用事業では、「居場所づくり」「移動支援」「安否確認」の３点を重点に３つの取り組みをしてきました。

中地区での、古民家を活用した居場所づくりでは、ランチを食べに来てくれる方の笑顔や美味しいという一言に喜びを感じながら、次のメニューは何にしようと工夫もしてきました。事業を始めてみると、庭を眺めながらホッと一息つけるスペースの整備や、隣のガレージを活用して、たこ焼き＆焼きそばなどの販売、小学校ともコラボして子どもも寄ってもらえるように駄菓子の販売や子どもの作品展示会など、ボランティアさんの夢も広がっています。

緑７丁会では、ほとんど使われていなかったコミュニティールームが毎月使用されることにより、住民さんには「かふぇグリーンヒル」としての居場所が認知され、参加者同士で、電話をかけて「早くおいでやぁ～」などの声掛けがはじまりました。お出かけランチでは、参加者にも車を出してもらうなどの協力を得ることができ、住民同士の横の繋がりも見えてきました。

淡輪地区では、ピンクの「つれってって号」が移動支援のシンボルとなってきました。移動支援のみならず、地域の防犯パトロールなどにも使われました。地域の住民の困りごとなどを「どないしたらええん会」で掘り起こし、地区の横の繋がりを強化する取り組みとして根付いてきています。また、他地区からもこの移動支援などの取り組みが注目されています。

2020年度は、拠点づくりや、利用する仕組みづくりなど、一からの取り組みを始めてきました。「住民の困りごとを解決したい」「独居の高齢者が多く、居場所を作りたい」などの地域住民の思いから始め、形になってきた事業を展開する中で、ボランティアの増加や事業の夢がどんどん膨らんできました。

休眠預金等活用事業の活用はあと２年あります。１年間で培ってきた事業の取り組み実績を糧に、５つの目標課題解決にむけ邁進してまいります。

Ⅶ.　２０２０年度アンケート調査より

2020年度の各事業ごとに、「参加者」には、参加した感想や今後の取り組みについての意見をたずねました。

「ボランティア」には、地域の中で支援や配慮が必要な方への取り組み手法についての調査を実施しました。

また、岬町人権協会の活動についても意見を頂き、今後の取り組みに活かしていきたいと思います。

集い「橋」
利用者アンケート

アンケート集約数: 78 枚

Q1:

性別	1. 女性(4%)　2. 男性(72%)　3. その他(0%)　4. 無回答(24%)
年齢	1. 10 代(1%)　2. 20 代(0%)　3. 30 代(0%)　4. 40 代(0%)　5. 50 代(3%) 6. 60 代(1%)　7. 70 代(8%)　8. 80 代(50%)　9. 90 代(36%)　無回答(1%)

Q2:集い「橋」の取り組みをどこで知りましたか

1. 知人の人から聞いて(10%)
2. 掲示板の張り紙を見て(76%)
3. その他(13%)
4. 無回答(1%)

Q3:集い「橋」には今回で何回目の参加ですか

1. 初めて(1%)
2. 2 回目(47%)
3. 3 回目(21%)
4. 4 回目(10%)
5. 5 回目(13%)
6. 6 回目(4%)
7. 7 回目(4%)
8. 8 回目(0%)
9. 9 回目(0%)
10. 10 回以上(0%)
11. 無回答(0%)

Q4:集い「橋」に参加してどうでしたか

1. 非常に満足した(5%)
2. 満足した(44%)
3. やや満足(49%)
4. どちらとも言えない(3%)
5. やや不満(0%)
6. 不満(0%)
7. 無回答(4%)

Q5:Q4 で回答いただいた理由についてお聞かせください

・参加しやすい　・家庭的なムード　・安心して食べられる　・食べ応えあった
・とてもおいしく値段の安さにびっくり　・にぎやかなところがよかった　・雰囲気が良い
・みんな明るくて気さくでよい　・友達に会えてうれしい　・味、品数、量とも満足

Q6:次回も参加したいと思いますか

1. ぜひ参加したい(1%)
2. タイミングが合えば参加したい(73%)
3. どちらとも言えない(24%)
4. 参加したくない(0%)
5. 無回答(1%)

Q7:今後、集い「橋」でどのようなことをして欲しいですか

・毎日ランチ希望します　・野菜、米などを置いて欲しい　・土日などにランチをして欲しい
・終了を二時でなく三時にして欲しい　・アルコールを置いて欲しい

普段の生活についてお聞かせください。

Q8:家族構成を教えてください

1. 1 人暮らし(10%)
2. 夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上) (40%)
3. 夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下) (28%)
4. 息子・娘との 2 世帯(1%)
5. その他(0%)
6. 無回答(20%)

Q9:週に 1 回以上は外出していますか？

1. ほとんど外出しない(10%)
2. 週 1 回(9%)
3. 週 2～4 回(10%)
4. 週 5 回以上(37%)
5. 無回答(33%)

Q10:家族・友人・知人と会う頻度はどれぐらいですか

1. 毎日ある(15%)
2. 週に何度かある(44%)
3. 月に何度かある(32%)
4. 年に何度かある(6%)
5. ほとんどない(1%)
6. 無回答(1%)

Q11:介護事業所、民生委員等の支援者と連絡をとる頻度はどれぐらいですか

1. 毎日ある(24%)
2. 週に何度かある(5%)
3. 月に何度かある(9%)
4. 年に何度かある(13%)
5. ほとんどない(3%)
6. 無回答(46%)

Q12:岬町人権協会をご存じですか

1. どんな事をしているか知っている(17%)
2. 名前だけは知っている(21%)
3. 知らない(33%)
4. 無回答(29%)

Q13:岬町人権協会では総合相談窓口を開設していますが、なにか困りごとがあった時に相談に行きたいですか

1. 相談に行きたい(18%)
2. 相談に行きたくない(28%)
3. わからない(5%)
4. 無回答(49%)

Q14:上記の Q13 での質問で、「相談に行きたくない」・「わからない」と答えた理由は何ですか？

・必要がないから・今のところ困りごとがない・まだ大丈夫・わからない
・今後の為に相談したい・自身も役所に勤めていて相談相手がいる

Q15:現在の生活の状況を教えてください

1. 大変満足(9%)
2. 満足(13%)
3. やや不満足(69%)
4. 不満足(8%)
5. 無回答(1%)

Q16:岬町や地域の賑わい、つながりを感じることがありますか

1. 大変感じる(14%)
2. 少しは感じる(33%)
3. あまり感じない(45%)
4. 全く感じない(8%)
5. 無回答(0%)

「かふぇグリーンヒル」
利用者アンケート

アンケート集約数: 36 枚

Q1: 差支えない範囲でお答えください

性別	1. 女性(67%)　2. 男性(28%)　3. その他(0%)　4. 無回答(6%)
年齢	1. 10 代(6%)　2. 20 代(0%)　3. 30 代(3%)　4. 40 代(3%)　5. 50 代(3%) 6. 60 代(14%)　7. 70 代(44%)　8. 80 代(22%)　9. 90 代(6%)　10. 無回答(0%)

Q2:「かふぇグリーンヒル」の取り組みをどこで知りましたか

1. ポストに入っていたチラシ(61%)　2. 知人の人から聞いて(39%)
3. 掲示板の張り紙を見て(0%)　4. その他(0%)　5. 無回答(0%)

Q3:「かふぇグリーンヒル」には今回で何回目の参加ですか

1. 初めて(39%)　2. 2 回目(53%)　3. 3 回目(9%)　4. 4 回目(0%)
5. 5 回目(0%)　6. 6 回目(0%)　7. 7 回目(0%)　8. 8 回目(0%)
9. 9 回目(0%)　10. 10 回以上(0%)　11. 無回答(0%)

Q4:「かふぇグリーンヒル」に参加してどうでしたか

1. 非常に満足した(31%)　2. 満足した(50%)　3. やや満足(8%)
4. どちらとも言えない(0%)　5. やや不満(0%)　6. 不満(0%)　7. 無回答(11%)

Q5:Q4 で回答いただいた理由についてお聞かせください

・持ち帰れる品物が多かったから　・団地住民同士のコミュニティに最適
・雰囲気がいい　・楽しみにしている　・初めて開始したから

Q6:次回も参加したいと思いますか

1. ぜひ参加したい(56%)　2. タイミングが合えば参加したい(33%)
3. どちらとも言えない(0%)　4. 参加したくない(0%)　5. 無回答(11%)

Q7:今後、「かふぇグリーンヒル」でどのようなことをして欲しいですか

・持ち帰れるメニューを増やしてほしい　・歌い手さんが来て欲しい
・簡単なからだを動かすこと　・会話が弾んだから頻繁にして欲しい
・店内がちょっと殺風景。テーブルの上に飾り物とかあればよいかと

普段の生活についてお聞かせください。

Q8:家族構成を教えてください

1. 1 人暮らし(50%)
2. 夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上) (11%)
3. 夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下) (3%)
4. 息子・娘との 2 世帯(11%)
5. その他(0%)
6. 無回答(25%)

Q9:週に 1 回以上は外出していますか？

1. ほとんど外出しない(14%)
2. 週 1 回(6%)
3. 週 2～4 回(33%)
4. その他・無回答(25%)

Q10:外出する際の移動手段は何ですか（複数回答可）

1. 徒歩(6%)
2. 自転車(0%)
3. バイク(0%)
4. 自動車（自分で運転）(24%)
5. 自動車（人に乗せてもらう）(6%)
6. 電車(0%)
7. 路線バス(6%)
8. 病院や施設のバス(12%)
9. 車いす(0%)
10. 電動車いす（カート）(6%)
11. 歩行器・シルバーカー(0%)
12. タクシー(6%)
13. その他(0%)
14. 無回答(35%)

Q11:家族・友人・知人と会う頻度はどれぐらいですか

1. 毎日ある(28%)
2. 週に何度かある(36%)
3. 月に何度かある(3%)
4. 年に何度かある(0%)
5. ほとんどない(8%)
6. 無回答(25%)

Q12:岬町人権協会をご存じですか

1. どんな事をしているか知っている(14%)
2. 名前だけは知っている(28%)
3. 知らない(31%)
4. 無回答(28%)

Q13:岬町人権協会では総合相談窓口を開設していますが、なにか困りごとがあった時に相談に行きたいですか

1. 相談に行きたい(17%)
2. 相談に行きたくない(0%)
3. わからない(44%)
4. 無回答(39%)

Q14:上記の Q13 での質問で、「相談に行きたくない」・「わからない」と答えた理由は何ですか？

- まだ困りごとがない
- 困ったときは知人に相談するから
- 民生委員と相談する
- 悩みが多くて何を相談していいのかわからない

Q15:現在の生活の状況を教えてください

1. 大変満足(8%)
2. 満足(47%)
3. やや不満足(11%)
4. 不満足(6%)
5. 無回答(28%)

Q16:岬町や地域の賑わい、つながりを感じることがありますか

1. 大変感じる(17%)
2. 少しは感じる(30%)
3. あまり感じない(35%)
4. 全く感じない(4%)
5. 無回答(13%)

「買い物支援」
利用者アンケート

アンケート集約数: 8 枚

Q1: 差支えない範囲でお答えください

性別	1. 女性(63%)　2. 男性(25%)　3. その他(0%)　4. 無回答(13%)
年齢	1. 10 代(0%)　2. 20 代(0%)　3. 30 代(0%)　4. 40 代(0%) 5. 50 代(0%)　6. 60 代(0%)　7. 70 代(50%)　8. 80 代(25%) 9. 90 代(25%)　10. 無回答(0%)

Q2:見守り活動の取り組みをどこで知りましたか

1. 知人の人から聞いて(50%)　2. 回覧・チラシ等(13%)
3. その他(50%)　4. 無回答(0%)

Q3:今は何回利用しましたか

1. 初めて(0%)　2. 2 回(0%)　3. 3 回(13%)　4. 4 回(25%)　5. 5 回(0%)
6. 6 回(0%)　7. 7 回(0%)　8. 8 回(0%)　9. 9 回(0%)　10. 10 回以上(25%)
11. 無回答(38%)

Q4：買物支援を利用してどうでしたか

1. 非常に満足した(50%)　2. 満足した(50%)　3. やや満足(0%)
4. どちらとも言えない(0%)　5. やや不満(0%)　6. 不満(0%)
7. 無回答(0%)

Q5:Q4 で回答いただいた理由についてお聞かせください

Q6:これからも利用したいと思いますか

1. ぜひ利用したい(63%)　2. 機会があれば利用したい(38%)
3. どちらとも言えない(0%)　4. 利用したくない(0%)　5. 無回答(0%)

Q7:今後希望することをお聞かせください

Q8:家族構成を教えてください

1. 1 人暮らし(50%)
2. 夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）(0%)
3. 夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）(0%)
4. 息子・娘との 2 世帯(13%)
5. その他(13%)
6. 無回答(0%)

Q9 週に 1 回以上は外出していますか？

1. ほとんど外出しない(0%)
2. 週 1 回(25%)
3. 週 2～4 回(25%)
4. 週 5 回以上(13%)
5. 無回答(38%)

Q10:家族・友人・知人と会う頻度はどれぐらいですか

1. 毎日ある(25%)
2. 週に何度かある(0%)
3. 月に何度かある(38%)
4. 年に何度かある(0%)
5. ほとんどない(0%)
6. 無回答(38%)

Q11:介護事業所、民生委員等の支援者と連絡をとる頻度はどれぐらいです

1. 毎日ある(0%)
2. 週に何度かある(0%)
3. 月に何度かある(25%)
4. 年に何度かある(0%)
5. ほとんどない(38%)
6. 無回答(0%)

Q12:岬町人権協会をご存じですか

1. どんな事をしているか知っている(0%)
2. 名前だけは知っている(50%)
3. 知らない(0%)
4. 無回答(50%)

Q13:岬町人権協会では総合相談窓口を開設していますが、なにか困りごとがあった時に相談に行きたいですか

1. 相談に行きたい(25%)
2. 相談に行きたくない(0%)
3. わからない(38%)
4. 無回答(38%)

Q14:上記の Q13 での質問で、「相談に行きたくない」・「わからない」と答えた理由は何ですか？

Q15:現在の生活の満足度を教えてください

1. 大変満足(0%)
2. 満足(63%)
3. やや不満足(0%)
4. 不満足(0%)
5. 無回答(38%)

Q16:岬町や地域の賑わい、つながりを感じることがありますか

1. 大変感じる(13%)
2. 少しは感じる(25%)
3. あまり感じない(25%)
4. まったく感じない(0%)
5. 無回答(38%)

「福呼の居間」
利用者アンケート

アンケート集約数: 7 枚

Q1: 差支えない範囲でお答えください

性別	1. 女性(100%)　2. 男性(0%)　3. その他(0%)　4. 無回答(0%)
年齢	1. 10 代(0%)　2. 20 代(0%)　3. 30 代(0%)　4. 40 代(0%) 5. 50 代(0%)　6. 60 代(0%)　7. 70 代(0%)　8. 80 代(100%) 9. 90 代(0%)　10. 無回答(0%)

Q2:見守り活動の取り組みをどこで知りましたか

1. 知人の人から聞いて(0%)
2. 回覧・チラシ等(0%)
3. 見守り支援ボランティアから聞いて(100%)
4. その他(0%)
5. 無回答(0%)

Q3:見守り活動についての満足度はどうですか

1. 非常に満足した(0%)
2. 満足した(100%)
3. やや満足(0%)
4. どちらとも言えない(0%)
5. やや不満(0%)
6. 不満(0%)
7. 無回答(0%)

Q4:これからも利用したいと思いますか

1. ぜひ利用したい(100%)
2. 機会があれば利用したい(0%)
3. どちらとも言えない(0%)
4. 利用したくない(0%)
5. 無回答(0%)

Q5:今後希望することをお聞かせください

Q6:週に 1 回以上は外出していますか？

1. ほとんど外出しない(0%)
2. 週 1 回(0%)
3. 週 2～4 回(86%)
4. 週 5 回以上(14%)
5. 無回答(0%)

Q7:家族・友人・知人と会う頻度はどれぐらいですか

1. 毎日ある(71%)　2. 週に何度かある(29%)　3. 月に何度かある(0%)
4. 年に何度かある(0%)　5. ほとんどない(0%)　6. 無回答(0%)

Q8:介護事業所、民生委員等の支援者と連絡をとる頻度はどれぐらいですか

1. 毎日ある(14%)　2. 週に何度かある(0%)　3. 月に何度かある(43%)
4. 年に何度かある(43%)　5. ほとんどない(0%)　6. 無回答(0%)

Q9:岬町人権協会をご存じですか

1. どんな事をしているか知っている(0%)　2. 名前だけは知っている(100%)
3. 知らない(0%)　4. 無回答(0%)

Q10:岬町人権協会では総合相談窓口を開設していますが、なにか困りごとがあった時に相談に行きたいですか

1. 相談に行きたい(100%)　2. 相談に行きたくない(0%)
3. わからない(0%)　4. 無回答(0%)

Q11:上記の Q10 での質問で、「相談に行きたくない」・「わからない」と答えた理由は何ですか？

Q12:現在の生活の満足度を教えてください

1. 大変満足(0%)　2. 満足(100%)　3. やや不満足(0%)
4. 不満足(0%)　5. 無回答(0%)

Q13:岬町や地域の賑わい、つながりを感じることがありますか

1. 大変感じる(29%)　2. 少しは感じる(71%)　3. あまり感じない(0%)
4. まったく感じない(0%)　5. 無回答(0%)

「見守り活動」
利用者アンケート

アンケート集約数: 24 枚

Q1: 差支えない範囲でお答えください

性別	1. 女性(69%)　2. 男性(29%)　3. その他(0%)　4. 無回答(4%)
年齢	1. 10 代(0%)　2. 20 代(0%)　3. 30 代(0%)　4. 40 代(0%) 5. 50 代(4%)　6. 60 代(0%)　7. 70 代(17%)　8. 80 代(63%) 9. 90 代(17%)　10. 無回答(0%)

Q2:見守り活動の取り組みをどこで知りましたか

1. 知人の人から聞いて(10%)
2. 回覧・チラシ等(0%)
3. その他(90%)
4. 無回答(0%)

Q3:見守り活動についての満足度はどうですか

1. 非常に満足した(42%)
2. 満足した(38%)
3. やや満足(13%)
4. どちらとも言えない(4%)
5. やや不満(0%)
6. 不満(0%)
7. 無回答(4%)

Q４:これからも利用したいと思いますか

1. ぜひ利用したい(75%)
2. 機会があれば利用したい(17%)
3. どちらとも言えない(4%)
4. 利用したくない(0%)
5. 無回答(4%)

Q５:今後希望することをお聞かせください

・今のままでいい。
・これからも見守りをして欲しい。ありがたい。
・これからも見守り訪問を続けて欲しいです。

Q6:週に 1 回以上は外出していますか？

1. ほとんど外出しない(17%)
2. 週 1 回(21%)
3. 週 2～4 回(42%)
4. 週 5 回以上(13%)
5. 無回答(8%)

Q7:家族・友人・知人と会う頻度はどれぐらいですか

1. 毎日ある(42%)　2. 週に何度かある(17%)　3. 月に何度かある(25%)
4. 年に何度かある(0%)　5. ほとんどない(8%)　6. 無回答(8%)

Q8:介護事業所、民生委員等の支援者と連絡をとる頻度はどれぐらいですか

1. 毎日ある(8%)　2. 週に何度かある(21%)　3. 月に何度かある(42%)
4. 年に何度かある(4%)　5. ほとんどない(13%)　6. 無回答(13%)

Q9:岬町人権協会をご存じですか

1. どんな事をしているか知っている(8%)　2. 名前だけは知っている(46%)
3. 知らない(38%)　4. 無回答(8%)

Q10:岬町人権協会では総合相談窓口を開設していますが、なにか困りごとがあった時に相談に行きたいですか

1. 相談に行きたい(38%)　2. 相談に行きたくない(4%)
3. わからない(50%)　4. 無回答(8%)

Q11:上記の Q10 での質問で、「相談に行きたくない」・「わからない」と答えた理由は何ですか？

・ヘルパーが毎日来るから。
・相談することがない
・まず家族に相談するので
・遠いから足が悪く、行きにくい

Q12:現在の生活の満足度を教えてください

1. 大変満足(4%)　2. 満足(75%)　3. やや不満足(17%)
4. 不満足(0%)　5. 無回答(4%)

Q13:岬町や地域の賑わい、つながりを感じることがありますか

1. 大変感じる(17%)　2. 少しは感じる(50%)　3. あまり感じない(25%)
4. まったく感じない(0%)　5. 無回答(8%)

集い「橋」＆喫茶「どんぐり」
地域支援者アンケート

基本情報		支援対象者について					
		外出の頻度が週1回より低いと思われる対象者		周囲から孤立していると思われる対象者		生活状況が特に心配と思われる対象者	
No.	どの様な立場で地域を支援されていますか	人数	どの様な支援があればそうした方の外出頻度が上がると思われますか	人数	孤立状態が解消されるための支援	人数	生活状況が改善されると思われる支援
1	ボランティア	15	頻繁な声掛け	1			
2	ボランティア	15	いきいきサロンに声掛けする	1			
3	ボランティア	15	いきいきサロンに声掛けする				
4	ボランティア	15	・声掛け、送迎 ・いきいきサロン、喫茶などに誘う		声掛け		
5	ボランティア	15	・声掛けをする ・いきいきなどに誘う				
6	ボランティア	15	・声掛けをする、いきいき等誘う ・車での送迎				
7	ボランティア	15	外出時、車で送迎する				
8	ボランティア	15	いきいきサロンの誘い	2			
9	ボランティア						
10	ボランティア		いきいきサロン、喫茶どんぐりに声掛けをする				
11	ボランティア 民生委員	15	・集いの場を作る ・集いの場に送迎をする	2～3			
12	ボランティア	15	いきいきサロンへさそいこむ				
13	ボランティア	15	・いきいきサロンなどに誘う ・喫茶サロン・声掛けをする				
14	ボランティア	15	喫茶時の送迎				
15	ボランティア	15	いきいきサロンに誘う				
16	ボランティア	15	日頃から気が付けば優しく声をかける				日頃の家族との関わり方が大事なのかな
17	ボランティア	15	いきいきサロンの声掛けや、買物支援				
18	ボランティア	15	交通支援があればいいと思う				
19	ボランティア	10～15	日頃の気軽な声掛け いきいきサロン等に参加呼びかけ 喫茶も同様に送迎もする				日頃の気軽な声掛け

岬町人権協会の活動について							
岬町人権協会の活動内容をご存じですか				支援対象者について困ったことがあれば岬町人権協会に相談したいと思いますか			
よく知っている	なんとなく知っている	あまり知らない	全く知らない	積極的に何でも相談したい	つなげたい人がいれば相談したい	あまり相談しようとは思わない	岬町人権協会にご意見ご要望
		○			○		
○					○		
○					○		
○					○		
	○				○		
○					○		
	○				○		
	○				○		
○					○		
○					○		
○				○			
	○				○		
	○				○		
○				○			
○					○		
○				○			
	○				○		
○					○		
○				○			

「かふぇグリーンヒル」
地域支援者アンケート

基本情報							
No.	どの様な立場で地域を支援されていますか	外出の頻度が週1回より低いと思われる対象者		周囲から孤立していると思われる対象者		生活状況が特に心配と思われる対象者	
		人数	どの様な支援があればそうした方の外出頻度が上がると思われますか	人数	孤立状態が解消されるための支援	人数	生活状況が改善されると思われる支援
1	ボランティア						
2	ボランティア						
3	民生委員 ボランティア	20	コミュニティルームを利用した催しが数多くあれば、数多くの人が出てこれるのではないかなと思います。	2～3		1～2	
4	ボランティア						
5	ボランティア	20	コミュニティルームを利用した催しが頻繁にあれば外出回数が増えると思う。	2	精神的な病と思われるからわからない	3	
6	ボランティア	20	イベントをすると、子ども達・高齢者が集まる頻度が上がると思います。	2		1	

岬町人権協会の活動について							
岬町人権協会の活動内容をご存じですか				支援対象者について 困ったことがあれば岬町人権協会に 相談したいと思いますか			
よく知っている	なんとなく知っている	あまり知らない	全く知らない	積極的に何でも相談したい	つなげたい人がいれば相談したい	あまり相談しようとは思わない	岬町人権協会にご意見ご要望
			○			○	
			○			○	
○				○			
○				○			
○				○			

「どないしたらええん会」
地域支援者アンケート

基本情報		支援対象者について			
No.	どの様な立場で地域を支援されていますか	外出の頻度が週1回より低いと思われる対象者		周囲から孤立していると思われる対象者	
		人数	どの様な支援があればそうした方の外出頻度が上がると思われますか	人数	孤立状態が解消されるための支援
1	ボランティア				
2	ボランティア				
3	どないしたらええん会	4	いきいきサロン等の楽しい集まりの場があると外出したいと思ってくれるかも。	0	
4	清掃活動				
5	ボランティア				
6	岬町淡輪主に10区11区		外出しても戻れない場合があり、地域ぐるみで見守る必要があると思います。		
7	ボランティア	3	いきいきサロン等、ラジオ体操等への参加呼びかけ。家族とボランティア、ケアマネとの連携。	0	地域のボランティアの見守り・安否確認が必要。
8	ボランティア				
9	ボランティアで 淡輪10区11区	20			
10	どないしたらええん会 地域ボランティアグループ		地域の人たちがだれでも参加できる催物があれば、支援が必要と思われる方にお声がけをする。自分から参加しにくい方もいらっしゃると思いますので「あんなことしてるから行かへん？」「一緒に行かへん？」等の声掛け。		「まわりの無関心」が怖いと思います。地域の人たちの対象者への見守りや声掛けが大切だと思います。地域とのつながりを持てるように支援する。
11	岬町人権協会 どないしたらええん会 地域のボランティア	20	・地域の活動に参加できるような体制を作る。 ・「どないしたらええん会」等、地域で顔の見える組織が、ラジオ体操、健康体操、清掃活動、防災訓練等の参加を促す。 ・地区福祉で連携し、ワンコインランチ等に誘導。	20	見守り活動を通じて、状況を把握し、関係機関と連携していく。
12		0	自立している方の見守り 通院乗降等支援		
13	岬町人権協会 どないしたらええん会	1	寝たきり以外の高齢者はいない。	0	地域内ではないと思う。

		岬町人権協会の活動について							
生活状況が特に心配と思われる対象者		岬町人権協会の活動内容をご存じですか				支援対象者について困ったことがあれば岬町人権協会に相談したいと思いますか			
人数	生活状況が改善されると思われる支援	よく知っている	なんとなく知っている	あまり知らない	全く知らない	積極的に何でも相談したい	つなげたい人がいれば相談したい	あまり相談しようとは思わない	岬町人権協会にご意見ご要望
				○		○			
			○			○			
0			○			○			
				○			○		
		○				○			今回のワクチン接種に関して、困っている皆さんのために、予約の代行等「どないしたらええん会」の方々が中心となって動いてくださったことに感謝しています。
			○				○		
0		○				○			相談に行きやすい雰囲気づくり
			○				○		
			○				○		
	SOSの出し方が、わからない方たちもいると思います。自分から支援等を言い出しにくい人の為にも地域の方たちが見守り・連携が大切です。 公的機関へのつながりも持っておく。	○				○			
		○				○			
			○				○		
0		○				○			皆様積極的で真剣に取り組んでいただいています。人権協会会長のもとに頑張っていきます。よろしくお願いします。

発　　行

岬町人権協会

連 絡 先

大阪府泉南郡岬町多奈川谷川１９０５－２２

０７２－４９２－３２７０

岬町休眠預金等活用事業
誰もが暮らしやすい地域の創造

２０２３年３月

岬町人権協会

ごあいさつ

岬町人権協会　会長　田中繁樹

3年間（2020～2022年度）の休眠預金活用事業の助成が終了した今、振り返りますと部落解放同盟大阪府連合会よりご紹介頂いた、2020年度の国が進める休眠預金活用法に基づく事業助成制度に応募したところ、大阪府で8団体が選ばれた中の一つに岬町人権協会が選ばれました。当人権協会は、一般財団法人大阪地域支援人権金融公社（愛称：ヒューファイナンスおおさか）の助成を受け「誰もが暮らしやすい地域の創造事業」を実施することになり、事業を具現化するために、三つの事業に取り組んできました。

一つ目の事業は、多奈川地区において空き家を活用した、地域の交流の場（居場所）づくりの実施です。多くの地域の皆さんの協力と DIY により内部を改装して、運営については地域で20年前からボランティアで「喫茶どんぐり」の活動をしている皆さんにお願いしました。ランチも頂ける居場所として、橋のたもとにあるので「集い『橋』」として、2020年9月13日に大阪府人権協会代表理事や岬町町長のご出席を頂きまして開店いたしました。ここではいろんな人とお話が出来て、安くておいしい喫茶や食事もでき、楽しい時間を過ごせると皆様には、大変喜ばれています。今では、他地域からもご来店頂いています。途中でコロナ禍になりましたが、いろんな対策・工夫をしながら継続しているところです。

二つ目の事業は、深日地区にある町営住宅の3棟の内の2つのコミュニティルームがあまり利用されておらず、居住されている方々のご協力によりまして、子育て向けと、高齢者向けの交流の場としての設備を整え「かふぇグリーンヒル」を立ち上げました。子育て向けについては、2020年7月19日に、高齢者向けは8月12日に開設いたしました。「かふぇ」では、いろんなメニューやこども達のランチメニューも工夫をして頂き喜ばれています。今まで、住宅居住者間の交流がほとんどなかったのですが、少しずつ交流の輪が芽生えてきて、階による交流や棟間による交流が進み、コミュニティールームへの参加者が定着してきました。さらには参加者の中からお手伝いや協力して頂ける人も出てきました。

2021年4月には、日頃外食などが出来ない高齢者が多いため「お出かけランチ会」を開催し、「集い橋」へ出向いた取り組みをしました。少し場所を移動しただけですが、日常と違う雰囲気の場所でランチが出来るということで、たくさんの方に参加頂きました。

また、2021年10月9日と2022年11月6日には住宅内の交流や小学校を含めた周辺地域との交流のため、「グリーンヒル交流の集い」を実施したところ、多くの皆様

と交流することができました。今後も継続していきたいと考えています。

三つ目の事業は、淡輪地域です。「福呼の居間」や「どないしたらええん会」につきましては、すでに活動しており、ラジオ体操などの身体づくり、買い物支援や、独居高齢者安否確認などに取り組んでいました。買い物支援については、個人の車で実施していましたが、今回の事業でリース車を活用してボランティアで取り組むことができました。

以上、三つの事業を実施している事が町内の各地域に波及して各々の地域で特色ある居場所づくりや交流の場づくり、買い物支援などが実施されるようになり、この休眠活用事業の影響が大きな成果につながっている事に驚いている次第です。

この事業開始当初よりご支援を頂きましたたくさんの方々には、衷心より御礼申し上げます。

CONTENTS

Ⅰ　ごあいさつ

Ⅱ　休眠預金等活用事業のはじまり　・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅲ　休眠預金等活用事業で取り組む課題　・・・・・・・・・・・・2

Ⅳ　古民家を活用した居場所づくり　・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅴ　団地のコミュニティルームを活用　・・・・・・・・・・・・・6

Ⅵ　買い物支援や見守り事業を活性化　・・・・・・・・・・・・・9

Ⅶ　活動ギャラリー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

Ⅷ　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

Ⅱ．休眠預金等活用事業のはじまり

『岬町まちづくり研究会』から見えてきた課題

近年の岬町の社会課題は、深刻な財政難のほか、このままでは、2040年には人口が10，872人、高齢化率44．1%になり、大阪府内でも特に人口の減少や高齢化が進むことが予測されています。その中でも多奈川・淡輪地域の65歳以上の高齢化率は、約60%と極めて高い数字で、『50年後を先取りした高齢化率』が大きな問題となっています。

町の特徴としては、低所得者が集住する「公営賃貸住宅」に住まれている割合が高く、他市から地域に流入することが少ないため、人口減少は大きな問題です。

2018年度に、WAMの活動助成金を受け、岬町、岬町人権協会、学識経験者、部落解放同盟大阪府連合会、㈱HRCコンサルティングとともに『岬町まちづくり研究会』を起ち上げ、暮らしのアンケート調査を実施しました。その分析の結果、少子高齢化、人口減少が町内の活力を衰退させる大きな要因となっていることがわかりました。多奈川・淡輪地域の65歳以上の高齢化率は、約60%と極めて高く、そのうち、高齢者の一人暮らし世帯が6割と、福祉的課題を抱えた一人暮らし世帯に対して、岬町としてのフォーマル、インフォーマルな社会資源が追いついていないという結果が出ました。

それらの影響により、大きく分けて5つの社会的課題が出てきました。

① コミュニティ機能が低下し地域の賑わいが喪失している。
② 経済が縮小し、地元商店の廃業によって、高齢者を中心とした買い物支援が必要である。
③ 交通網が減少し、高齢者が外出する機会を失うことにより、ADLの低下、認知症、孤独死の恐れがある。
④ 高齢者が、家族や地域とのつながりを持たず、社会的に孤立してしまう。
⑤ 生産年齢人口の減少でサービスの住民負担の増加が見込まれる。

これらの社会的課題を解決していくためにも、安心・安全に暮らせるコミュニティづくりの必要性が浮き彫りとなりました。

このような中「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」（休眠預金等活用法）に基づき、2009年1月1日以降の取引から10年以上、その後の取引のない預金等（休眠預金等）を、社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度が2019年度から始まりました。岬町人権協会として応募したところ、民間公益活動を行う「実行団体」として選ばれました。

この民間公益活動は2020年度～2022年度までの3年間の事業助成が可能となり、この事業を活用して、誰もが暮らしやすい地域づくりを開始しました。

Ⅲ．休眠預金等活用事業で取り組む課題

5 つの目標課題

休眠預金等活用事業で解決したい 5 つの課題を設定しました。

① 誰もが社会の一員として暮らせる社会づくりの必要性
誰もが孤立することなく、お互いの違いを認め合える「人」と「人」がつながり、支えあう地域づくりを行う。

② 安心して暮らせる環境（社会資源）の整備の必要性
安心で安全な生活ができるよう、地域住民の「身近な相談の場」「地域の活動の場」「交流の場」を整備する。

③ 住み慣れた地域で必要な支援・サービスを受けられる仕組みづくりの必要性
行政、介護・医療機関、地域団体などと連携すると共に、サービスを必要とする人を早期に発見・支援できるような見守り活動の強化。

④ 助け合いの輪を地域に広げる住民互助型の仕組みづくりの必要性
「困った時はお互いさま」の心で助け合い、買い物等の楽しみ・笑顔が広がる移動支援にチャレンジ。

⑤ 次世代の地域を支える人材の発掘と育成の必要性
住民、自治会、ボランティア、NPO、民間企業などと連携し、地域人材やボランティアの発掘・育成。

上記の 5 つの課題を解決すべく、 3 年間で 3 つの事業に取り組みました。
1 年目（2020 年度）は、岬町人権協会がこれまで蓄積した住民ニーズを行政、地域団体、住民などの地域を支える側が協力して、居場所支援、個別支援、サービスの仕組みづくりを行い、支えが必要な方に情報が届くよう、アウトリーチを重点にした活動に取り組みました。
2 年目（2021 年度）は、コロナ禍でも取り組みを止めることなく、創意工夫をした事業に努めました。
3 年目（2022 年度）は、今までの取り組みの実績と経験をもとに、休眠預金事業が終了した後も、持続可能な取り組みができるように議論を重ねてきました。
以下 3 つの事業についてご報告いたします。

Ⅳ. 古民家を活用した居場所づくり

1. 古民家探しから始まった活動

中地域は、近所にコンビニやスーパーなどがなく、高齢者を中心とした買い物支援が必要な地域のひとつです。休眠預金等活用事業では、空き家を活用した居場所づくりの『空き家 DIY』に取り組み、毎週オープンするパンや菓子類、日用品、雑貨などの販売を行う小さなコンビニづくりを行い、高齢者のみならず、子どもたちからも喜ばれる活動を地域で実現しようということになりました。

多奈川地区の港地域の周辺を中心に空き家を探し、いくつかの物件の家主さんに協力のお願いにまわりました。最終的には、一軒屋橋のたもとに佇む元料理旅館の空き家をお借りすることができ、沢山の部屋数や中庭もあり、今後の活動に向けて夢が更に膨らみました。また改装にあたっては、シルバー人材センター、多奈川地区のボランティアの方々の協力を得て、古民家のDIYに取り組みました。長らく使われていなかった古民家の1階を主に改装するところから始めました。真夏の炎天下、皆さんの協力で劇的な変化に!!

2. 集い「橋」OPEN

2020年秋に古民家を改装してオープンした集い「橋」。週2回のランチ営業が口コミで広がり、周辺の地域住民の憩いの場として、1日平均40名ほどのお客さまの来店があり、とても盛況です。コロナウィルス感染予防として、各テーブルにアクリル板パーテーションの設置や、玄関入り口での手指の消毒や検温なども実施してきました。またコロナ禍でもできる活動として、ランチ営業をテイクアウト方式に変更しながら活動を続け、毎回90食の売り上げがありました。古民家を改装した 1 階は集い「橋」のランチ営業の場として活用してきましたが、地下階も絨毯を敷いたり、テーブルを置いたりなど、新たな活動拠点の場としても使えるように準備をしました。集い「橋」は、地域住民の認知度が徐々に高まっており、毎月平均50人の参加がありました。しかし、コロナウイルスが流行し、緊急事態宣言などが出され、休止せざるを得ない月もありました。また、食材の値上がりが続き、メニューの工夫も余儀なくされました。日常外出できない人が出かける

場所のひとつとなっており、人と会える楽しみが増えたことで、月に1度美容室に通うなど、生活に張りが出る方もいました。また、ボランティアの家族同士（高齢男性）で誘い合ってランチに来るようになり、よもやま話をしながら食事を共にする中で、孤立防止にもつながっています。古民家の隣のガレージでは、月 2 回たこ焼き販売も開始し、平均80食を売り上げています。時には、子どもたちにも「集い橋」を知ってもらおうと、たこ焼き無料券を小学校で配布してもらいましたが、日々の子どもたちの参加の定着には残念ながらつながりませんでした。コロナ禍で、ランチの提供ができない時には、テイクアウト方式でお弁当やお惣菜の販売にも取り組みました。 また、子どもたちにも集い「橋」を知ってもらおうと、2022年12月には、『集い「橋」で遊ぼう!多奈小元気っ子』を開催し、近隣の子ども達や保護者が参加したクリスマス会を実施しました。

3. 「まちの灯り一軒屋家橋」を主体とした事業体制の確立

地下階を拠点とした、新たな取り組みを作っていこうと、2021年8月から、実行委員会を立ち上げ、住民へのニーズ調査を実施しました。

ニーズ調査では、地域住民が日常の生活支援や移動支援などを求めていることが明らかになりました。今までは、集い「橋」の居場所事業がメインとなっていましたが、2022年度から、「まちの灯り一軒屋橋」を主体とし、事業部門として①集い「橋」のかふぇ＆販売事業②「行こか」の買い物支援事業を位置づけ、今後は日常の困りごとの解決など生活支援事業の展開へと広げていくことになりました。

4.「行こか」（買い物支援事業）

2021年8月に実施した住民ニーズ調査では、「近隣にスーパーがなく買い物に困っている」・「ゴミ出しに困っている」・「電球取り換えができない」など、日常生活を送るうえでの困りごとが浮き彫りになってきました。そこで淡輪地区で実施している「つれってって」買い物支援事業に学び、買い物支援事業「行こか」の2022年度実施をめざし、2021年10月から2回のモデル運行を実施しました。事前に会員募集のお知らせを配布し、会員登録にもつとめました。また、回数乗車券や車に貼るステッカーやスッタフジャンパーも用意し、2022年4月から「オークワ岬店」を目的地として運行を開始しました。

5.「喫茶どんぐり」（居場所事業）

「喫茶どんぐり」は、毎月第3日曜日に港会館で開催し、喫茶コーナーや総菜の販売などに取り組んでいましたが、コロナ禍での開催をどうするかをメンバーで議論し、テイクアウト形式で実施していくことにしました。港会館の前にテーブルを設置し、野菜、惣菜、弁当、手作り菓子などを販売しました。心まちにしてくれていた住民の方が多く、総菜やお弁当などは月100食の売り上げがありました。近隣住民からは、「早く喫茶も再開してほしい」「みんなと話したい」などの声も上がりました。

6. 新たな取り組みを模索

3年間の取り組みでは、居場所事業としての拠点づくりから始まり、「ランチ」の開催、ガレージを活用した「たこ焼き販売」など創意工夫をして取り組んできました。

ボランティアの後継者問題や事業資金計画など課題はたくさんありますが、課題も抱えつつ、現在は手作りピザが焼けるようにピザ窯を設置し、新たな取り組みに奮闘しています。また買い物支援「行こか」も会員拡大にむけて、買い物支援だけにとどまらず、ボランティア活動の輪をさらに広げ「まちの便利屋さん」のような活動を生み出すとともに、持続可能な事業に向け、これからも夢を大きく持ち続け、取り組んでいきます。

夏には、ピザを焼こう!!

「行こか」でスーパー以外にも行きたいなぁ

ボランティアの後継者を育成しよう

この取り組みを広げよう

ごみ出しのお手伝いしたいな

子ども企画もしよう

今度は流しそうめんしよう

Ⅴ．団地のコミュニティールームを活用

1. コミュニティルームを活用して

緑7丁会がある町営緑ヶ丘住宅の1棟、2棟の団地の1階の一室にコミュニティルームが設置されています。しかし、あまり活用されていませんでした。

そこで、休眠預金等活用事業のチャレンジ事業として、団地のコミュニティルームを活用した、居場所事業を展開することにしました。建替えに伴い、子育て層が多い棟もあり、育児の悩みを抱えた保護者の方とのおしゃべりサロンや、子どもといっしょに遊べるスペースも合わせて、多世代が交流できる居場所づくりを進めることになりました。

2. 「かふぇグリーンヒル」として認知されはじめた

2020年7月から取り組みを開始しました。

現在 1 棟では、毎月第2日曜日にモーニング形式で開催。2棟では、毎月第4日曜日にランチ形式で開催しています。

2021年4月には、日常的に外食などができない高齢者が多いため、「お出かけランチ会」 を開催し、集い「橋」へ出向いた取り組みをしました。

少し場所を移動しただけですが、日常と違う雰囲気の場所でランチができるということで、たくさんの方が申し込んでくれました。

開催当初は、ボランティアが声掛けをして参加してくれるという状況でしたが、取り組みを重ねることで、参加者が他の近隣住民に声をかけて、連れ立って来てくれたりと、町営緑ヶ丘住宅の団地のコミュニティルームを活用した居場所事業としての認知度があがってきました。この「かふぇグリーンヒル」の活動内容や、子ども達の参加状況を知った、岬町役場の建築課より、2棟コミュニティルームにプレイマット・子ども用の椅子・トイレにはおむつ替え用ベッドを設置していただきました。これをきっかけに幼児連れの参加者も増えました。

3. 社会状況や季節など、工夫を凝らした開催

開始当初は、スーパーの総菜など「喫茶どんぐり」で販売している総菜を買い取り、販売していました。しかし回数を重ねるごとに、ボランティアから自分たちでできる範囲での手作り総菜の販売や、四季折々の食材を使ったランチに取り組もうとアイデアが出され、メニューも豊富になり、春には「豆ごはん」、秋には「サツマイモごはん」、テイクアウトには「ちらしずし」など、ボランティアの思いがこもったメニューに変わっていきました

しかし、参加者が定着し始めた時期にコロナウイルスが流行し、休止せざるを得ない月が続きました。地域住民からは「いつ再開するの？」などの声が上がり、ボランティアで相談し、テイクアウト方式を試みました。初めての試みだったので、住民さんが来てくれるか心配でしたが、逆にコロナ禍で買い物に行くのが困難な高齢者にとっては、テイクアウト方式が喜ばれました。

また、季節を感じてもらえるように「ハロウィンパーティ」「クリスマスパーティ」などを開催し、部屋の飾りつけやプレート皿を変えたり、BGMを流したりなどの雰囲気づくりもしました。特にデザートとしてつけたクリスマスケーキは、大人も子どもも大好評でした。子どもたちも参加してくれるようになったので、自由に削ってオリジナルの絵柄を出せる「スクラッチアート」や「プラバン」づくりにも取り組みました。

4. 交流のつどい

緑7丁会は、多奈川線の深日港駅を降り、急な坂道を上っていくと、町営緑ヶ丘住宅の団地や子育て支援センターがあります。しかし高台にあるため、子育て支援センターの利用者や地域住民以外の往来はほとんどありませんでした。

そこで、近隣住民にも「かふぇグリーンヒル」の取り組みを知ってもらうために、「交流のつどい」を2021年と2022年に2回開催しました。今まではかふぇ開催の周知は緑7丁会の団地にしか配布していなかったチラシを1，100枚印刷し、緑1～9、多奈川の朝日、小田平、平野北、深日小学校、子育て支援センターに配布しました。また、各自治会の掲示板にも張り出すなど、開催周知範囲を広めました。

2021年の「第 1 回交流のつどい」は、集会所近辺で開催しました。岬町人権協会・集い「橋」にも協力いただき「やきそば」・「フランクフルト」などの販売や、子どもたちにも楽しんでもらえるように「輪投げ」や「おもちゃすくい」などの出店形式にしました。

2022年の「第2回交流のつどい」では、1回目と同じ出店に加え、舞台演奏として、地元の太鼓集団「潮」の力強い演奏や、教円幼稚園児童によるかわいらしい太鼓の演奏も取り入れました。

2回の「交流のつどい」はとても盛況で、緑7丁会だけではなく、他地域からも子ども連れの親子など、総勢200名に参加いただき、このつどいをきっかけに「かふぇグリーンヒル」に参加してくれる人も増えました。

5.持続可能な取り組みをめざして

毎月2回の開催や交流のつどいの開催により「かふぇグリーンヒル」は地域住民の皆さんにすっかり定着しました。近隣住民との繋がりが少なかった緑7丁会でしたが、この3年間で少しずつ参加者が増え、住民同士が近隣住民を気に掛ける関係が育ったり、初めは参加者だった人がボランティアとして活躍してくれたり、コミュニティが活性化しました。「かふぇグリーンヒル」に参加することで、近隣の子どもたちの変化に気づいてくれる高齢者の姿も見受けられました。朝ごはんを食べていない子どもには声をかけて、共に「かふぇグリーンヒル」に参加したり、放課後遊んでいる子どもの見守りをしてくれたり、地域で子ども達を育てていく姿ができ始めました。

休眠預金事業の終わりが居場所の終わりとならないよう、岬町人権協会としても、各ボランティアや町とも連携し、2023年度からは月1回の開催となりますが、イベントの開催なども企画しながら、大人も子どもも気軽に参加できるような居場所づくりをめざしていきたいと思います。

Ⅵ. 買い物支援や見守り事業を活性化

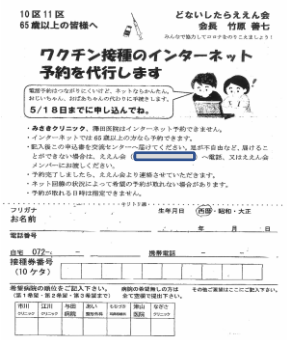
1.「どないしたらええん会」の取り組み

淡輪地域の10区・11区（約400世帯）において、65歳以上の独居高齢者が顕著に増加しており、安全・安心な暮らしを継続するためには、今後、高齢者も含めた支え合いの地域づくりが喫緊の課題となっています。将来に向けて「何かすることがないか」「どないしたらええんか」と地域住民で考え、岬町シルバー人材センターの理事長の呼びかけに、自治区長、地区役員、長生会役員、民生委員・児童委員、盆踊り・秋祭り保存会役員、その他の賛同者が集まり「どないしたらええん会」が立ち上がりました。休眠預金等活用事業では、「買い物などの移動支援事業」「居場所事業」に重点を置いてチャレンジすることにしました。

休眠預金活動事業 2 年目からの「ええん会」の活動は、コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置の発令で思うように進捗できない状況でありましたが、コロナ渦だからこそ気づいた助け合いや支えあいが、少しずつではありますが実践できてきました。

2. 今必要な取り組みを

新型コロナウイルスが流行し、ワクチン予約が始まりましたが、電話がなかなか繋がらず、インターネット予約もできない高齢者の方がたくさんいました。そこで、「どないししたらええん会」が、ワクチン接種予約の代行をすることになり、見守り事業の対象者である独居高齢者や近隣住民宅に、31 名の「どないしたらええん会」の会員が訪問し、取り組みの周知をしました。4台のパソコンを設置し、若手ボランティアにもお手伝いいただき、118 名のワクチン予約をすることができました。


10区11区
65歳以上の皆様へ

どないしたらええん会
会長　竹原 善七

ワクチン接種のインターネット予約を代行します

電話予約はつながりにくいので、ネットならかんたん。おじいちゃん、おばあちゃんのわからに手続きします。
5/18日までに申し込んでね。

・みさきクリニック、岬田医院はインターネット予約できません。
・インターネットでは65歳以上のかなら予約できます。
・記入後この申込書を交流センターへ届けてください。電話不自由など、届けること上ができない場合は、ええん会（　　）へ電話、又はええん会メンバーにお渡しください。
・予約完了しましたら、ええん会より連絡させていただきます。
・ネット回線の状況によって希望の予約が取れない場合があります。
・予約が取れる日時は指定できません。

フリガナ
お名前　　生年月日　（西暦・昭和・大正）　年　月　日
電話番号
自宅 072-　-　　携帯電話　-　-
接種券番号（10ケタ）
希望病院の順位をご記入下さい。（第1希望・第2希望・第3希望まで）　病院の希望無しの方は全て空欄で結構です。　その他ご要望はここにご記入下さい。

市川クリニック	江川クリニック	今田病院	清水整形外科	今井内科	岬山医院	早野ウクリニック

2. 移動支援「つれってって号」の活用

休眠預金等活用事業を活用し、移動支援車として「つれってって号」をリースすることになり、本格的に買い物移動支援事業として取り組むために、運転ボランティアの育成支援として、福祉有償運送運転講習会を開催し、25名の参加がありました。

買い物移動支援事業モデルは、「つれってって」ドライバー（ボランティア）が5名集まり、地域支え合い移動サービス講習会を開催するなど、以前から少しずつ始めていました。モデル事業では、つれってって会員は8名で完全予約制、毎週月曜日に買い物を楽しむことができ、自分の食べたいもの、買いたいものを自分の目で見て選ぶ喜びを感じ、多くの交通弱者の希望となる取り組みをめざしました。

2020 年 11 月 9 日から事業を開始し、ピンクの軽自動車（つれってって号）で、毎週月曜日に町内外のスーパー等に送迎をしています。

利用者からは、「買い物が一番の困りごとだったので、ドアツードアで連れていってくれるので、こんなにありがたいことはない」「誰かに頼めば買ってきてもらえるが、実際に自分で見て買いたかったし、何よりも一緒にワイワイ言いながら出掛けるのが楽しい」と嬉しい言葉もたくさん寄せられています。

2022年に取り組んだ利用者アンケートでは、3 年前と比べて買い物支援を利用する中で、地域の助け合いの輪が広がったと感じましたかという問いに対して、「大いに感じる」「少し感じる」という声も聞けました。また大半が「今後も利用したい」という回答がありました。利用者の減少もあり、利用者募集のチラシを配るなど創意工夫を凝らしました。この取り組みが広がり、自分たちの地区でも実施したいなど、他地区にも波及しました。

また、「つれってって号」を活用し、年末の 12 月 20 日～23 日には、防犯・防災・コロナへの注意喚起を促す地域内パトロールを実施しました。

岬町では、移動支援やパトロールなどの取り組みが、他地区にも注目され始めており、自分の地区でもやってみたいとの問い合わせがありました。

3. おしゃべりサロン「福呼（ねこ）の居間」

以前から淡輪地域の高齢者が集まり、月に1回お菓子を食べながら交流する居場所としておしゃべりサロン「福呼（ねこ）の居間」を開催していました。今回休眠預金等活用事業を活用し、この居場所づくりの強化に取り組みました。

月1回開催予定でしたが、コロナ禍で中止をせざる得ない月も多くありましたが、開催日に参加してくれた方からは「毎月1回ここに来て昔話をするのが唯一の楽しみ、この会をずっと続けてほしい」との声が聞かれました。

4. 「てとて隊」の結成

買い物支援事業の継続をするとともに、従前から考えていた有償活動事業（てとて隊）に取り組みました。日常の困りごとなど、支援項目を 8 項目程度に定め、生活支援をワンコインで担う事業です。「手伝って」→「てっとうて」から、「てとて隊」と名付けられました。事前準備として、地域有償活動講座を3名、福祉有償運送運転講習を12名が受講しました。また、昨年より制度化された「岬町住民主体地域活動補助金」を申請しました。「カーテンレールの取り付け」や「障子の廃棄処分」などの依頼があり、少しずつではありますが、地域住民のお困りごとを解決してくれる「てとて隊」として活動を今後も広げていきます。

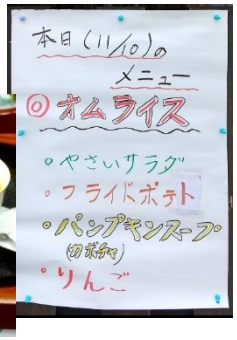
5. 見守り事業の強化

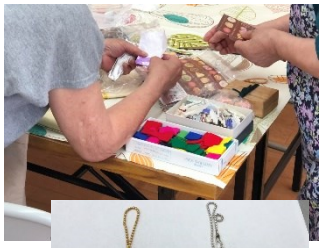
独居高齢者等見守り事業は、地域内の約40名の対象者に、会員が班体制となって、月に1回訪問して安否確認や近況を聞いたり、様々な話し相手になっています。留守の場合は訪問カードを書き込んだり、電話対応もしました。コロナ渦で外出する機会もなく、訪問者も少ないため、会員が訪ねると喜んでくれて、つい長話をしてしまうということも報告されました。この見守り事業を通じて、孤立しがちな高齢者には、買い物支援、ラジオ体操・健康体操などへ誘導しました。これがきっかけで参加する方のいきいきと活動している様子がうかがえました。2021年11月に、岬町の危機管理課から依頼を受け、「避難行動要支援者登録制度」を 10 区・11 区で同意した支援要請者が64名もいることから、本格実施することになりました。 また、2022 年 1 月には、岬町の教育委員会から依頼を受け、毎週月曜日～金曜日に、子ども安全ボランティアにも従事し、小学生の下校時には交流センター前などでの見守り活動にも参加しています。

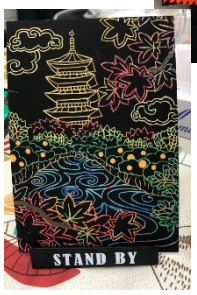
6. 「どないしたらええん会」を中心に

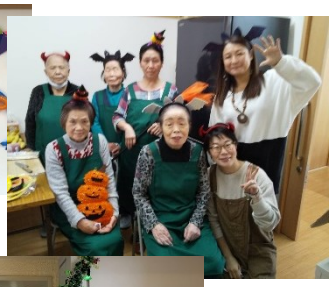
「どないしたらええん会」を中心に、3年間手探りで今必要とされている事業に取り組んできました。また、この取り組みが他地域にも影響を与え、自分たちの地域を知る、困っていることを把握、解決する手法を、話し合える緩やかな場を創出する大事さが広がりつつあります。たくさんの方の出番と結びつけ、見守り活動や買い物支援・移動サービスなどを必要としている人たちの課題発見とともに、孤立防止のための居場所づくりにむけて今後も活動をしていきます。

Ⅶ　活動ギャラリー


本日(11/10)の
メニュー
◎オムライス
・やさいサラダ
・フライドポテト
・パンプキンスープ
(初ボタン)
・りんご




STAND BY



コミュニティルーム
かふぇ
グリーンヒル

つれってって
(高齢者)
サービスカー

Ⅷ. おわりに

「岬町人権協会」の3年間にわたるチャレンジが一つの区切りをつけることとなりました。私自身は WAM 助成金から5年間の長きにわたり、人権協会が取り組む様々な事業に事務局の一員として参加させてもらい、地域の皆さんのボランタリズムに感動し、発想の豊かさに驚かされながら、多くのことを学ばせてもらいました。

岬町は、大阪府の最南端に位置し、生活圏はほぼ和歌山と言ってよく、誰もが知るランドマークであった「岬公園」も 2020 年に閉園するという、まさに高齢化と過疎化に直面した町です。人権協会の誰かが、「限界集落や」と自笑されていましたが、この事業に参加したての頃は、大阪の南北を縦断する移動時間の長さと相まって、本当にそう思いました。

この「ひと・まち・げんき助成」事業の人権協会のエントリーテーマである「居場所づくり」「移動支援」「見守り事業」が、本当にこの「限界集落？」で実現できるのか、最初に見た古い公営住宅の姿からは「不安」しか湧いてこなかったし、それは分配団体であるヒューファイナンスの PO も同じ思いであったと思います。その不安一杯の地域がこの3年間、次から次に事業展開を進め、協働の輪を広め、気が付いた時には他の公募団体をも抜きん出るような成果を上げたことに、驚きと少々の自負をしています。事業元の「ジャンピア」からも高い評価を得たと PO が教えてくれました。何よりもこれらの活動が岬町行政の「模範」として、町内の他団体にも大きな影響を与えたことが最大の成果であったと思います。

私がこの3年間の岬町の事業に参加して学んだことは、「互酬性の規範」という概念です。「互酬性の規範」とは、「元気なうちは人様の役に立ちたい、自分が困ったときに助けてもらえるから」という矜持にも似た作風です。この地域の人達にはこの規範が当たり前のように根付いていました。「ボランティア」という表現では言い表せない、「人への想像力」や「住民への信頼」であり、何よりも地域への限りない「愛情」からくる愛おしさが、一つ一つの言葉や行為から溢れているように感じたのは私だけではなかったと思います。これこそがこの事業を大きな成功に導いた最大のエキスであるように思えます。

集落居住者の半数以上が65歳以上の高齢者である地域を「限界集落」と言うのであれば、この岬町は紛れもなく、「限界化」しているのかも知れませんが、この地域には大阪の市内には見られない共同体の営みと、「規範」や「信頼」が残っていましたし、むしろ私たちの住む都会の「限界化」の意味を感じさせるものでありました。この「休眠事業」がそれらの共同体の営みを再活性することができることを示した点は、「ハイカラ」に見える本事業のアプローチに、新たな視点を提起した意味でも大きかったのではないかと思います。

岬町人権協会にとっても、一旦始めた事業を引き続き実施していくために、これからも様々な知恵を絞りだす「試行錯誤」が求められ、困難も予想されますが、私には３年前に感じた「不安」ではなく、妙な「安心感」や「期待」も存在しています。引き続き仲間を連れて、集い「橋」の「たこ焼き」を食べに行こうと思います。

株式会社 HRC コンサルティング　代表取締役　　大北規旬雄

発　行

岬町人権協会

連 絡 先

大阪府泉南郡岬町多奈川谷川１９０５－２２

０７２－４９２－３２７０